

業務フローと関連書式を有機的に結びつけ、実践的で改善へと直結する業務プロセスの見える化を実施



「入試業務に関連する約 200 の業務フローを分析し、iGrafX を使って可視化してもらいました」

横浜国立大学 都市イノベーション府・研究院
理工学系大学院等事務部 副事務長 片平 剛 氏

業務改革が求められる大学経営の現況

- iGrafX を利用して、業務の見える化に取り組んだ背景について教えてください。
- 現場レベルでは、どのような課題がありますか。

少子化による大学間競争の激化や交
付金の削減、法人化による業務改革の
必要性など、大学の経営環境は年々厳
しさを増しています。そのため、業務
のコストダウンや効率化が求められて
います。大学の業務を改革しようと
なると容易ではありません。

その要因はいくつか挙げられます
が、まず国立大学ならではの事情とし
ては、職員がもともと公務員であるた
め改革に積極的でないことや、意思決
定に時間がかかることがあります。ま
た、大学は 1 年のサイクルで業務が回
り、機会が年に 1 回しかないことも要因と
なっています。

現場レベルの課題もいくつかありま
す。自分たちの現況から話をすると、
理工学系大学院等事務部では、工学府、
環境情報学府、都市イノベーション学
府の 3 大学院と、理工学部という学部
の業務の負担は非常に大きいのですが、容
易に人員を増やせるわけではなく、むし
ろ人員は削減の方向にあり、業務改革
による負担の軽減は、ある意味、差し
迫った課題でもあります。

また、全般的な業務の課題として挙
げられるのは、「作る書類が多いこと」と
「担当者の裁量によって業務が実施
されていること」です。

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

■所在地：
神奈川県横浜市中区常盤台 79 番 1 号
■設立：1949 年
■職員数：1,012 名 (2013 年 5 月 1 日現在)



■概要：
横浜師範学校、横浜高等商業学校、横浜高等工業学
校の創設からの流れを汲み、1949 年に新制大学
として発足。2009 年に創立 60 周年を迎えた。
1979 年に現在の常盤台キャンパス (神奈川県横浜
市保土ヶ谷区) にすべての学部・大学院等を集約
し、地域における中核的拠点大学として、広く社会
に優れた人材を輩出している (学生数：学部
7,471、大学院：2,561)。

IUI 横浜国立大学
都市イノベーション府・研究院

■所在地：
神奈川県横浜市中区常盤台 79 番 1 号
■設立：2011 年 4 月
■職員数：60 名 (2013 年 5 月 1 日現在)

■概要：
横浜国立大学が設立した「都市」をテーマとする新
しい大学院「都市イノベーション府・研究院 (IUI/
Institute of Urban Innovation, Yokohama)」。
2012 年 4 月に開設され、建築、芸術、土木工学、
国際社会、等を専門とする大学院生が各々の探求を
深めながら、最終的に「都市」という領域で協働す
る日本で初めての大学院である。

建築学・土木工学という都市のハー
ドに関わる分野
と、人文・社会科学、国際社会や文化・芸術などソ
フトに関わる分野の双方で、実務に長けた高度専門
家の育成を行っており、双方の分野を横断的に学ぶ
こともできる多面的な研究環境を提供している。最
終的には、都市のイノベーションというテーマに対
して多様なアプローチを実行する能力を持ち、グロ
ーバルに通用する次世代リーダーの養成をめざして
いる。



横浜国立大学のキャンパスの様子
(写真提供：横浜国立大学)



「iGrafxを導入する以前、何度も見える化を試みたのですが、上手くいきませんでした」(片平氏)

- 「作る書類が多い」とは。

大学の教務の仕事は、書類を完成させることとコントロールとなっているケースが多く、作成する書類の数と種類が多いという特性があります。しかし、いざ業務を行おうとすると、「書式がどこにあるのかわからない」といったケースや、書式を複数の業務で再利用できるようにしていないので「管理すべき書類の数や種類が膨大」になってしま

うと課題があります。



担当者で業務が実施されることによって、次のような問題が発生し

- 引き継ぎに苦悩する
- 業務のナレッジが蓄積されない
- 担当者に間かないと業務がわからない
- 同じ業務なのに学部ごとに業務手順が異なる

このような現場の課題を解決するのに、業務の見える化が有効だと考えたのが、業務の見える化に取り組んだ背景になります。

- 業務を見える化すると、どのように

課題が解決されるのでしょうか。

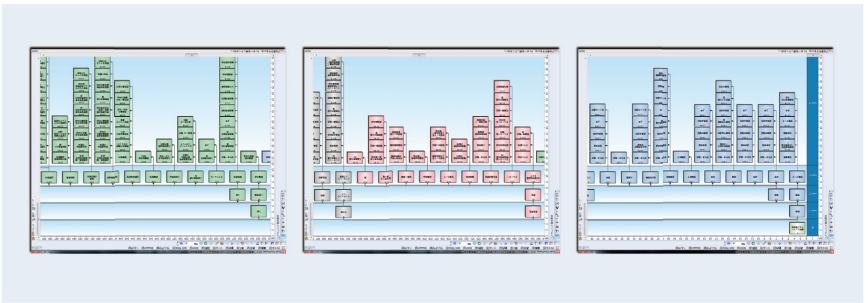
か理由がありますか。

書式の効率管理と業務の属人性排除をめざし業務の見える化を模索

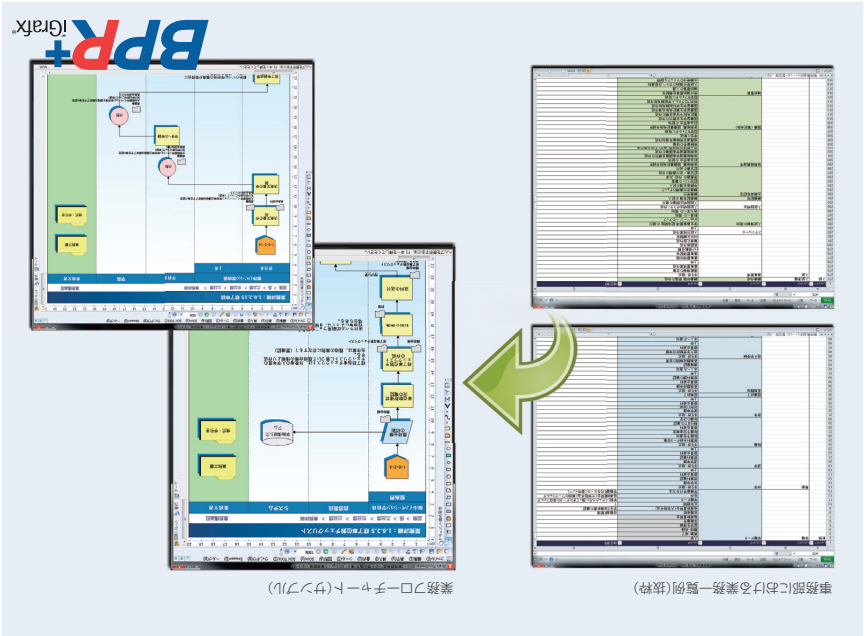
実は、以前、業務の見える化に取り組んだことがありますが。そのときは、HTMLのリンク機能を使って作ったのですが、非常に手間のかかる作業で、メンテナンスにかかる時間は、またその何倍も面倒だったことで、あきらめました。

また、文書管理ツールを使った方法も、考えてみたことがありますが。しかし、文書管理ツールは、書式を管理するのはいいのですが、業務フローとの連携や、業務フローから呼び出すという設定が難しい、もしくは高価なツールを使用しなければならないので、実現できませんでした。

容易に把握できるようになります。



●業務構造図の全体イメージ



●業務一覧に基いてフローを作成

業務フローをクリックするだけで、書式を呼び出すことが可能に

- iGrafxを使って、業務を見える化しようと考えた理由を教えてください。

iGrafxは、フロー図に使用する文書(書式)をリンクし、クリックするだけで簡単に書式や書式が保管されているフォルダを呼び出すことができま

使用する書式と業務の手順を一元的に管理できるので、業務の見える化から可能なため、容易に情報共有環境(電子マニュアル)を構築することが

- 実際に業務の見える化は、どのように行ったのでしょうか。

今回、入試に関連する約200のフローを分析し、見える化を試みました。通常の業務があり、私たち自身が手を動かすことは難しかったので、サン・ブライソック・システムズよりオペレーションを行うエンジニアの方に依頼し、各業務の内容を担当者にヒアリングしてもらいました。その内容を分析し、フロー図の作成と書式のリンクを設定してもらいました。

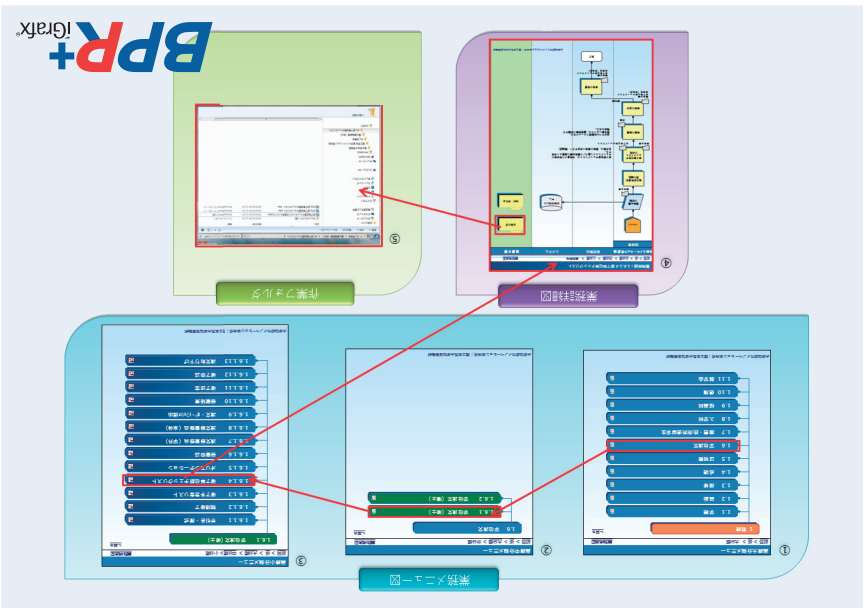
- 今後の展開予定があれば教えてください。
- サン・ブライソック・システムズへの評価と期待を教えてください。

入試に関連する業務やその流れは、基本的に大きく変わらないはずですが、実際に私たちは行っていることを、具現化する適切な提案を求めています。オペレーションの担

今回の業務の見える化の取り組みは、iGrafxとサン・ブライソック・システムズの存在なしでは実現できません

- iGrafxを導入して、どのような成果が出ていますか。

入試業務の見える化を終え、いよいよ



●階層構造メニュー(メニュー化による業務プロセス管理)

- 入試に関する業務を選んだ理由はありますか。

入試に関連する業務やその流れは、基本的に大きく変わらないはずですが、実際に私たちは行っていることを、具現化する適切な提案を求めています。オペレーションの担

今回の業務の見える化の取り組みは、iGrafxとサン・ブライソック・システムズの存在なしでは実現できません

お忙しい中、貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました